



平成26年3月期 決算報告

クボテック株式会社

経営成績

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成26年3月期)	前期 (平成25年3月期)	来期予想 (平成27年3月期)
売上高	2,491	1,995	2,900
営業利益	△ 457 (△18.4%)	△ 638 (△32.0%)	100 (3.4%)
経常利益	△ 448 (△18.0%)	△ 635 (△31.8%)	90 (3.1%)
当期純利益	△ 263 (△10.6%)	△ 691 (△34.6%)	580 (20.0%)

- ◎売上高は、画像処理外観検査装置をはじめ前期に比べて増加しましたが、FPDメーカーの設備投資が依然慎重で、損益は3期連続して赤字となりました。
- ◎海外子会社では、KUBOTEK KOREAは大手FPDメーカー向けの売上が好調に推移したものの、Kubotek USAは売上が伸びず厳しい状況が続いております。
- ◎来期は、こうした厳しい状況を踏まえ従来の施策に加え、新大阪営業所の売却など資産の圧縮と、人件費などの固定費削減によってさらに損益分岐点を引き下げ黒字を確保する決意です。

貸借対照表

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成26年3月期)		前期 (平成25年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産				
現預金	1,034	28.4	1,317	30.5
売上債権	597	16.4	728	16.8
たな卸資産	538	14.8	471	10.9
その他	△ 51	△ 1.4	27	0.6
固定資産	1,522	41.8	1,782	41.2
資産計	3,641	100.0	4,327	100.0
流動負債	2,292	62.9	2,685	62.1
固定負債	617	17.0	602	13.9
負債計	2,909	79.9	3,288	76.0
資本金	1,951	53.6	1,951	45.1
利益剰余金	△ 1,168	△ 32.1	△ 905	△ 20.9
その他	△ 51	△ 1.4	△ 7	△ 0.2
純資産計	731	20.1	1,038	24.0
負債及び純資産計	3,641	100.0	4,327	100.0

◎総資産は、前期末に比べ現預金、固定資産などで約7億円減少し、36億円となりました。

◎負債は、前期末に比べ借入金の返済などで約4億円減少し、29億円となりました。

◎純資産は、純損失の計上から2.6億円減少し、7億円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当 期 (平成26年3月期)		前 期 (平成25年3月期)	
	金 額	構成比(%)	金 額	構成比(%)
日 本	1,355	54.4	1,252	62.7
米 国	408	16.4	350	17.6
韓 国	726	29.2	392	19.7
計	2,491	100.0	1,995	100.0
うち海外	1,608	64.5	1,323	66.3

◎日本では、ハイビジョン映像伝送装置や3DCADシステムは、国内向けが好調で増収となりました。しかしながら、主力製品である画像処理外観検査装置は大手FPDメーカーの設備投資が低調で、前期に比べ微増にとどまりました。

◎米国では、CAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の売上が計画通りには伸びず、厳しい状況となりました。来期に向け事業体制を見直し、固定費の削減を含む再建計画を推進しております。

◎韓国では、大手FPDメーカー向けに画像処理外観検査装置の設備改造や部品販売で、大幅な増収となりました。

キャッシュ・フロー計算書

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成26年3月期)	前期 (平成25年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 149	△ 120
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	302	△ 123
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 468	△ 662
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	32	24
V.現金及び現金同等物の増加額	△ 282	△ 881
VI.現金及び現金同等物の期首残高	1,224	2,106
VII.現金及び現金同等物の期末残高	942	1,224

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の回収などに努めましたが、損失計上から、1億4千万円の支出となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、CAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の開発投資で1億6千万円支出しましたが、東京営業所の売却によって3億円の収入となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済により4億6千万円の支出となりました。

受注状況

連結

(単位:百万円)

	当期 (平成26年3月期)	前期 (平成25年3月期)
受注高	1,563	1,557
受注残高	875	792

◎当期は、主力製品である画像処理外観検査装置は、液晶テレビなどの需要低迷が続きFPDメーカーの設備投資は依然慎重で、受注、受注残高は低水準で推移しました。

◎来期は、タッチパネル、機能性フィルム、有機EL向けなど従来の液晶以外の検査装置の拡販と、成長が見込まれる中国市場に注力し、受注を確保する方針であります。

まとめ

- ◎液晶をはじめとするFPD分野では、スマートフォンやタブレット端末などの製品市場は好調ですが、大型液晶パネルの需要は低迷し、大手FPDメーカーの設備投資は依然慎重な動向が続いております。
- ◎当期は、主力の画像処理外観検査装置は、前期と比べ売上は増加しましたが当初計画を下回りました。また、ハイビジョン映像伝送装置や3DCADシステムの販売は好調で、グループ全体でも売上は増加しましたが、赤字を解消することはできませんでした。
- ◎当社グループは、こうした厳しい事業状況のもと、資産の圧縮と人件費など固定費削減によって損益分岐点の引き下げを行い、損益構造の改善に努めております。
- ◎一方で、前期から新規事業として取り組んでおります次世代フライホイール蓄電システムの研究開発も順調に進んでおります。独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの助成も継続しており、早期の事業化を目指して開発を加速させる方針です。
- ◎これら対策の実施により事業構造を早期に転換し、収益性の回復と製品開発、販売拡大により事業基盤の再構築を図る所存です。